

# PRESS COLLECTIVE

— Autumn 2024 —

collective vol.49  
5th October 2024  
@event space 雲州堂



https://collective-music.com/

edit: tawaki text: kengomatsui, yu, 楠田行展, itaru wakui, tawaki design: yukiokimura.com

## Column 1

### collective 20周年

KENGO MATSUI



皆さまこんにちは！ 20年来のお付き合いの方も、1年くらいのお付き合いの方も、皆さまのおかげで今日のcollectiveがあります。本当にありがとうございます。20年前のことを覚えている方はいるでしょうか。ちなみにmixiとFacebookの開始が2004年だそうですね。

実は2004年6月20日、collective第1回開催の写真は1枚も残っていません。撮影自体をしていませんでした。collectiveを3年は続けようという思いはあったのですが、記録とかシェアの発想自体がなく、ただその場を楽しむということしか思っていなかった気がします。今思えばもったいなかったな〜とも思いますが、あの日

あの場所にいた人の中にか残っていない、特別な、奇跡のような時間だったんだと思つてにしています。第1回のフライヤーだけが残っていて、あの画像の雰囲気はcollectiveの原風景です（作ってくれたマスナガさん、ありがとうございます）。

唯一覚えているのは、あの日、雲州堂の入口から出たところで空を見上げたことで、ZENITH OSAKAが伸び込んだ、梅雨時期にもかかわらずきれいに晴れた空を見ていたら、「すべてが自然で無理がなく、うまくはまっている。このパーティは音楽の神様の祝福を受けている。絶対に成功する」という啓示が降りてきて、僕はこのパーティに確信を持ったという記憶です。

press collective vol.1に寄せた文章で僕はWeb上のDavid Mancusoのインタビュー記事から以下の発言を引用しました。

“It was my own way of socially rebelling.”

一応、そんな気持ちを胸に秘めながら、やってたんですね。ま〜しかし20年は長い。20年後もこのメンバーとパーティやってるなんて、あの頃は想像もしてなかった。いや、嘘です。すいません。ちょっとだけ思ってた。口には出さずに心の奥深くにしまってた。

一緒に遊んでくださった皆さま、雲州堂の皆さま、全ての方にお礼をお伝えしたいです。ありがとうございます。これからもうござよろしくお願ひします。

## Column 2

### 今こそ推したい魚

YU

collectiveの始まった20年前との比較で顕著なのは深刻な水産物の漁獲量減少と価格の高騰。かつての大衆魚の代表格サンマは気楽に食べられる魚ではない。様々な原因について書くと自分の心が荒れてしまうので割愛する。飲食店が一斉にシャッターを下ろし、呆然と店の前で立ち尽くした呑んべえ達が家飲みを余儀なくされたコロナ感染拡大期。晩酌の新たな充実を図るために始めた「魚を捌いて食べる」試みが、今では飲み歩きを凌ぐレベルの趣味となっている。

今回、読者へ向け声を大にして伝えたいのが「痩せたサンマより太ったイワシを食べろ」である。イワシは昨今の水産事情の中でも比較的安定した漁獲が見込まれる魚種といわれ、まだ気楽に買える魚である。アジ、サバも減ってきている現状、大衆魚最後の砦かもしれない。年中出回るが、梅雨時から秋にかけて食されることをお勧めする。

よく行く天満市場では5月以降千葉県銚子のイワシが出てくるが、「入梅イワシ」といって梅雨時に入ってきてからがイワシの本領発揮である。味の濃さは銚子に軍配が上がるが、脂乗りと身保ちのよさでは愛知県豊浜産がよい。

しかし、それらを凌駕するNo.1

イワシは大阪湾のイワシだ。夏をピークに岸和田で水揚げされる「金太郎イワシ」といわれる丸々太った120g超相当の大型のものはブランド魚として豊洲市場にガンガン出荷される（豊洲の近くに住むKMAが羨ましい）。大阪の魚屋でこのレベルのものに出会う機会は少ないが、秋に入ってからその一歩手前のサイズの100g付近のがバラバラと入荷するので、もし魚屋で見かけたら是非手に取ってもらいたい。

造りに、焼きに、段違いのクオリティを感じてもらえるだろう。繰り返す。「痩せたサンマより太ったイワシを食べろ」。イワシは、日頃マールの魚を触らない初心者にも扱いやすいので是非推したい。手開きのコツを掴めば三枚おろしより圧倒的に楽で、厄介な小骨も綺麗に取れる。手が臭くなるのが嫌なら二トリル手袋をはめればよい。詳細は鮭浩也のYouTube動画がわかりやすいので参考にされたし。

また、イワシは小兵にも輝けるポジションが存在するところも素晴らしい。小イワシであれば簡単に自家製アンチョビが作れ、オリブオイルを満たした瓶に詰めて一年は保存でき、パスタに使ったり、辛みを抜かないオニストラとともにポテサラに入れると最高だ。アンチョビの作り方は超イージーなので気になる方はお試しあれ。



鮭浩也の  
YouTube 動画

## 趣味

## 楠田行展

pressに書く文章のヒントを得よう。collectiveのホームページを開いた。僕のプロフィールには「趣味は色街跡の散策と全国ハードオフ巡り」とある。ホームページは9年前に整備された。現在の僕と当時の自分の間にあまり変化はない。

僕がハードオフ巡りを始めたのは10年ほど前。仕事で出張し、取引先との時間調整のために立ち寄ったのが最初である。店内を歩き回り、ジャンクコーナーにあったレコードを購入したことをきっかけに始めた趣味は今も続いている。

行く先々でのレコードとの出会いは新鮮ではあるが、今現在ハードオフでのレコード探し自体に大きな意味はない。これまで41道府県を巡回したが、一部地域を除いてどこでも大抵、同じものが並んでいる。確かに、貴重盤を入手した場合や何気なく手に取ったレコードが良盤だった時は意義深い。ただ、他のリサイクルショップで釣果が上がることもしばしばである。

ハードオフを運営するハードオフコーポレーションは2024年9月7日時点、国内で919店舗を展開し、その数には古着などを販売する「オフハウス」といった別業態も含まれる。919店のうち、ハードオフの本社がある新潟に67、東

京に79、千葉に59、神奈川に51、埼玉に102店舗存在する。(楠田が呼称する)関越五人衆だけで358店舗。全体の3分の1以上を占める。同社では1000店舗開設を目標に掲げているようで、今後も店は増える。

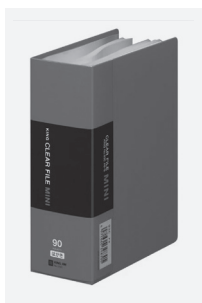
僕がハードオフにこだわる理由は、同社が2020年から始めたハードオフアプリの存在が大きい。店舗から発信される電波が届く範囲に入ること、「チェックイン」できる機能を備え、各店への訪問記録が付く。スタンプラリー感覚を楽しめる点が魅力だ。未踏の地にあるハードオフに行く理由はここにある。レコードを探すための手段だったのが、いつの間にか目的になっていたのだ。

実際の訪問時は、チェックイン、商品探し、相場感の調査、会計までが一連の流れ。これらの動作を30分で完了するというのが僕なりのルーチンである。店内には「近藤真彦」のレコードが無数にある。近藤をかき分けた先にあるのは、真彦だ。

近藤真彦の確認作業を幾度となく繰り返し、僕が巡回した数は546店舗。全店達成までまさに道半ばである。最多店舗数を誇る埼玉県への訪問は想像に難くない。恐らく近藤の数も最多。100マッチだろうと、ソツとしてしまう自分がいる。確認を繰り返すことで、僕だけが認める達成感を得る。この趣味はまだしばらく続きそうだ。

## No.92C A6-S

## ITARU WAKUI



クリアファイル ミニは、カラーが赤・黄・緑・黒の4色、収納枚数が60・120・180枚の3サイズで展開されていた。

てからファイルを購入し、以来そこに収めてきた。

なんで買ったか、いつ買ったかも覚えていない、なんのこだわりもないファイルです。ところがこのCLEAR FILE MINI KING NO.92C A6-Sというファイル、60、POCKETSすなわち60枚収納という容量を誇りまして、よくよく考えてみると単純に計算して年4回の開催だとすると15年分、年3回の開催だとすると20年分も収められるシロモノなわけです。

はたしてそんなに長きにわたってこのメンツ、このやり方でcollectiveをしつづけるのかどうか、購入時点では想像にせず手にとったファイルですが、気づけばもはや15年はとくに通り越えていて今年でなんと20周年、開催回数もVOL.49まで到達しました。

60、POCKETSをチョイスしたのをみずからの先見の明と考えて悦に入るのか、それとも流石の慧眼と自画自賛するのか、はたまた先のことなんてなんも考えてなかったんだらとわが身を腐すのか、それはともかくとしまして、大容量が自慢のKING CLEAR FILE MINI 60、POCKETSにはまだあと10枚ほど収められる余地が残されています。さていったいこれから何年後にこのファイルはいよいよ満杯になり、そしてそのとき次の1冊として、すでに生産終了の同じ製品にかえて私はどんなファイルを手にとるのでありましょうか。

## Absence / KIMBANOURKE

## Home / A SONG FOR YOU

この20年間で自分の好みがちよっとずつ変わってきました。シンプルなもの、素材の良いものがしっくりきます。味の濃い豚骨ラーメンは好きだけど今は食べる機会が随分減りました。音楽もそれと似た感じですか。

ずっと退屈だと思っていた1950年代のクールジャズを最近は好んで聴いています。新譜も変わらずチェックしています。2024年リリースですごく良かったのが韓国SSW、KIMBANOURKEのAbsence。北山にあるGGというレコード屋がこの作品をLP化しています。ほとんど声とギターだけで構成された作品ですが、これ以上足さなくて良いと思える味わい深いです。

もう一つ紹介したいのがドイツの「スベルグループ、A SONG FOR YOUのHome。レーベルは意外にも質の高いハウスをリリースするノッペ知れるrhythm section internationalです。「スベルというと汗だらけになって歌うイメージがありますが、この作品は真逆。ネオ・クラシカルを彷彿とさせる静謐な演奏に抑制されたクワイアが絶妙に絡み合う感じは唯一無比。それでいて素朴な美しさに溢れています。